

釣り歴50年の太公望
溪流釣りの拠点に最適！



四賀ガルテナーの楽しみ

ガルテンで何してん!?

四賀は畑仕事と釣りの基地 悠々自適な大人の楽しみ

坊主山クラインガルテン 333号

早川 二郎さん

神奈川県横浜市にお住まいの早川二郎さん(72)は、坊主山に通い始めて12年目を迎えるベテランガルテナーさんで

す。手入れの行き届いた畑では、2人のお子さんたちからのリクエストにも応えたいと何種類もの野菜を育てています。

中でも一番人気の落花生は、地元の人からもう一カ所土地を借りて作っているほど。「素人の農業はお天気次第」といつつ、大きなニンニクも見ごとで、土づくりには熱心に取り組む姿勢が伝わってきます。

20代のころ、結核を患って養生していた時に花を作ったのがきっかけで「畑づくりをしてみたい」という思いを退職後に実現した早川さん。「喜んで食べてくれる人がいるから作りがいがありますよ。息子・娘夫婦も楽しみにしているようです」と嬉しそうです。

早川さんのもう一つの楽しみはイワナやヤマメを求めて山の中をめぐる溪流釣り。20代のころからずっと続けている釣り歴50年の太公望で、今でも県内では木曾や北アルプス、足を延ばして岐阜や新潟、富山まで出かけます。「ここからならどこも2時間ぐらいで行けるんですよ」

若いころの夢は、寝泊まりできる車に乗って山奥まで行き、そこからテントで野営して10日ぐらい釣り歩くことでした。でも、実際に実現する年になつたら足腰が衰えちゃって。だから、ここを拠

点に体力に見合った釣行という想いもあってガルテナーになりました。一石二鳥です」と笑います。

息子さんも釣りが好きで、年に数回は一緒に東北まで行くこともあるそうです。「釣りの醍醐味はなんといっても勘が当たった時。計画を立てている時も夢が広がるね」

溪流釣りのシーズンが終わると今度は日本海でアジやサヨリ釣り。「釣りも、釣った魚を待っている人がいるのが張り合い。腹わたもとってあげるので喜ばれますよ」

一方、横浜では、息子さんがかケ防止にと買ってくれたパソコンでエクセルを覚えて、娘夫婦の会社の事務を手伝っており、お孫さん用にゲーム感覚で勉強できる計算ゲームや着せ替えゲームなどを作って楽しんでます。奥様に先立たれてから月の半分は信州で過ごすという早川さん。単身赴任生活が長く、その間自炊をしていたので家事は苦にはならないといいます。「信州に来るようになってからますます健康になりました。体の動く限り通いますよ」と話す笑顔が輝きました。